

県中教研 音楽部会だより

第 35 号

発行日 令和2年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 久田 潤
題 字 金山 泰仁 先生

音楽との出会いの場を大切に

指導主事 干場恵利華

本年度、学校訪問研修や各種研究会等で、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、思考・判断し、表現する生徒たちに出会うことができました。パートごとに役割を理解し、互いに活躍場面を意識しながら歌う姿、明確な視点を持ち、互いに表現を聴き比べている姿が思い出されます。

特に印象に残っているのは、楽曲の特徴を音楽の構造から探っていた生徒たちが、作者のメッセージを教師から伝えられた場面です。作者が思春期の不安や迷いを音楽で表していたことを知った生徒たちは、知覚と感受の関わりで考えることが、作者の思いや意図に迫ることにつながると実感しているようでした。

このように、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽と豊かに関わる資質・能力を身に付けていくためには、音楽との出会いの場が大切になります。まず、教師が、音楽の特徴を十分に分析し、生徒の実態に合わせて教材曲を提示します。そして、生徒一人一人が感受したことを引き出し、その感受はどこからもたらされたのかを知覚との関わりで考える場を設定します。生徒は、音楽を形づくっている要素の働きを、音を介して共有・共感することで、音楽を捉える力を確実に身に付けていくことができます。

作者の思いや意図を理解した上で、さらに、自分たちの表現を求めて試行錯誤することで、その音楽は生徒たちのイメージや感情等と関連付けられ、「意味のある存在」となります。楽譜どおりに表現することに留まらず、自分たちの思いや意図を明確にもって創意工夫する姿こそ、生徒が思考・判断し、表現する音楽活動といえます。

生活や社会の中の音楽と豊かに関わる価値を生徒自身が実感できるよう、より一層、音楽との出会いの場を大切にしていきたいものです。

(西部教育事務所)

授業への努力を

部長 久田 潤

令和5年の全日本音楽教育研究会全国大会富山大会に向け、中教研音楽部会としても一層の研究の充実が求められています。私は、全国からの参加者に富山県の授業と授業研究をアピールするよいチャンスであり、アピールするには、ここ数年の授業研究がとても重要だと思っています。研究授業を通し、新学習指導要領が求める「何ができるようになったのか」が分かる授業と授業の分析について、全国に提案ができると思うからです。授業は生徒の実態により変わりますが、私は「何をどのように育てたいか」を明確にし、子供の実態に即して「自分ならどう授業をするか」を生徒と勝負する時間だと考えています。そして、研究授業では、生徒との勝負を参観者に客観的に問うのではないかと考えています。1時間の授業で勝負をするを通し、ごくわずかな変化を見付け認める目を磨いていかなければなりません。しかし、この勝負には生徒との信頼関係や研究仲間の教員との人間関係が最も大切です。教員として信頼してもらえる人間になりたいと常に思います。

私はお世話になった方の「人間は恥をかかなければ成長しない」という言葉が心に残っています。そして、恥をかきたくない自分に気付く度に思い出します。授業も自分の考え方だけで行っている、成長は求められません。何度も授業を見ていただくことで自分が勉強していくのです。新しいことへの挑戦はとてもエネルギーが必要です。そして時間がかかります。しかし、その時間を楽しむことができたなら、それは充実した時間となります。たくさんの先生の力が集まり、充実した研究が行えるよう、一人一人が自分を高める努力をしていかなければなりません。音楽の高まりを求めて毎日努力を重ねた日々と同じくらいの努力が、授業を高めることについても必要だと思うのです。

(南・井口中)

第63回 研究大会報告

【研究主題】幅広い音楽活動を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するにはどうすればよいか。
— 「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動の工夫 —

東部地区（富・東部中）

古川姉穂教諭が、「曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう」という題材で、合唱曲「勇気のうた」を教材として1年生で授業を行った。授業では、後半の繰り返し部分に焦点を当て、各声部の役割や旋律の流れ、強弱記号の違いに着目させながら、歌い合ったり話し合ったりして、思いや意図が伝わるような音楽表現を工夫する活動が見られた。また、転調して繰り返される楽曲ではあるが、あえて比較しやすいように転調しないで歌うことで、生徒の「気付き」を導き、生徒同士、または生徒と教師による「対話的な」深まりの場面が展開され、生徒の学習意欲を高めながら学習課題に迫っていくという素晴らしい内容であった。また、ICTやホワイトボード等を活用し、楽譜を見やすく掲示したり、録音する場面を効果的に取り入れたり、成果や課題等を確認し合えるよう工夫されていた。

部会協議①では、本時のねらいに迫るための効果的な手立てやより豊かな合唱表現にするための指導法等についての活発な意見が交わされた。藤井昭彦指導主事（東部教育事務所）からは、音楽のよさを感じ取るには、楽譜に記載されている内容に一旦立ち戻ったり、正確な音程で歌えるような場を設定したりして、創意工夫に必要な技能を高めていくことが大切であるという助言をいただいた。

部会協議②では、引き続き藤井昭彦指導主事より、学習指導要領の内容を踏まえ、「中学校で音楽を学ぶ意義」や「音楽的な見方・考え方」、そして「資質・能力の3つの柱」について、その内容を分かりやすく解説していただいた。



佐藤 真（富・北部中）

西部地区（氷・北部中）

「作者の思いを伝えるために表現を工夫しよう」を学習課題とし、パート毎に話し合いながら様々な表現を試し、曲にふさわしい歌唱表現を追求しながら歌唱活動に取り組むという内容であった。語頭をはっきりさせることや語感を生かした抑揚を付けることなど、既習事項を生かしながら生徒たちは意欲的に取り組んでいた。「どんなfがよいか」という教師の問いに、「今の自分を応援しているところだから明るい音色のfがよいと思う」という発言があった。歌詞の内容から作曲者の思いをくみ取るという前時の学習を生かしながら、強弱記号の意味をとらえ、表現を工夫するなど、学習の積み上げが感じられた。

部会協議①では、授業についての協議が行われ、豊かな合唱表現にする効果的な指導方法やパート練習の生徒たちの自主的な活動にするための手立てが話題となった。干場恵利華指導主事（西部教育事務所）からは、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせるため、感受と知覚をリンクさせることが重要であり、曲を聴いて感じたことやそう感じた理由を考えさせ、音楽を形づくっている要素を手がかりに表現を工夫させる活動を積み重ねることが大切であると助言をいただいた。

部会協議②では、授業力向上アドバイザーの齊藤忠彦先生より、「新学習指導要領を踏まえた音楽科の授業づくりと評価」と題して、「音楽的な見方・考え方」「新学習指導要領の評価について」「音楽科の存在意義」等について、映像や音楽等を交えながら分かりやすく解説していただいた。



高崎 千春（南・福野中）

全日本音楽教育研究会 全国大会 に参加して

公開授業Ⅰでは、鑑賞及び歌唱「日本のいろいろな民謡のよさを味わおう」（第1学年）を参観した。3つの民謡を歌い比べ、それぞれの曲の特徴を見付ける授業であった。子守をしている人形や作業用の道具が用意されており、実際に身体を動かしながら歌ったり聴いたりする表現活動ができるように工夫されていた。見付けた曲の特徴をその動作と共に歌ってみる実践が多いが、この授業は見付けた特徴の反対で歌ってみることで、その曲のよさや特徴をより実感させる授業であった。

公開授業Ⅱでは、歌唱「混声三部合唱を創意工夫して歌おう」（第1学年）を参観した。新曲「幸せ」（山崎朋子作詞・作曲）を扱い、中学校で初めて混声三部合唱に取り組む1年生の授業であった。本時は表現を工夫し、他のパートとどのように合わせて歌うかについて考える授業で、生徒たちは自分たちが考えた表現の工夫をみんなで歌い試しながら、どの歌い方がよいのかを考えていた。自分のパートだけでなく、他のパートの歌い方やバランスの要望も意見交換され、前時までの歌詞の内容の理解、旋律の動きや組み合わせ方、曲の構成等の学習が活かされていた。

その後行われたワークショップでは、山崎朋子先生の合唱指導に参加した。公開授業で教材に使われた「幸せ」という曲を題材に、歌い方や指導の方法について教えていただいた。どのような思いで作曲したのか、また、注意する部分など具体的な話を聞くことができ、大変参考になった。

今回この研修に参加し、授業への多くの手掛かりをもらうことができた。今まで自分が取り組んできた比較や話し合い活動等をさらによりよいものに改善しながら、生徒たちの音楽性を一層高められるよう、研鑽を積んでいきたい。

柳原 薫（小・蟹谷中）

富山県音楽教育研究会講習会に参加して

文部科学省教科調査官の志民一成先生による講習「新学習指導要領全面実施に向けて音楽科の授業づくりを考える」では、新学習指導要領に示されている育成すべき資質・能力の三つの柱や、目標と内容との系統立てや各資質・能力の具体等について詳しく解説していただきました。志民先生が作曲された「輪唱カデンツ」を受講者全員で歌い、「思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素」について、実践的に学ぶことができました。また、評価の観点の趣旨についても解説していただき、2年後の全面実施に向けて、示唆をいただきました。

筑波大学非常勤講師の中島寿先生による講習「鑑賞指導～基本的な考え方／楽しい聴き方・聴かせ方～」では、ねらいを明確にした鑑賞指導について、実践を交えながら教えていただきました。中島先生は、鑑賞の授業は「音楽そのものを教えるのではなく、『聴き方』を学ぶ授業である」と強調されました。講習の中で、歌劇「カルメン」の前奏曲を鑑賞しましたが、発問や聴かせる部分によって「拍子感」「音色」「強弱」等、聴き取らせたいものが異なってくるのが分かりました。「鑑賞を学ぶことで、他の音楽活動で生かすことができたり、音楽以外でも人の意見を聞いた経験が将来に生きたりするのではないか」という中島先生の鑑賞指導に対する思いや考えが強く伝わってくる講習でした。この講習を通して、生徒の鑑賞の仕方を学ぶことが生涯音楽に親しんでいく態度を養うことにつながっていくと強く感じました。

両先生の講習から、様々な音楽を通しての感じ取りがあることを気付かせることが、音楽の価値観を広げることになると感じました。教材曲を通して何を学習させるかを意識した指導をするために、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。

大庭 郁穂（富・西部中）

フレッシュさんから

岩瀬中の「群青」

今年度、校内合唱コンクールの3学年合唱に「群青」を選曲しました。この曲の背景、そして曲に込められている被災者の思いを知り、そこから何を感じ、何を伝えたいのか。音楽を手掛かりに震災について考え、今の自分の生き方を見つめ直す機会にしてほしい。そんな願いを込めてこの曲を選んだのです。合唱コンクール後の生徒の感想には、様々な思いが綴られていました。

- ・ 津波の被害に遭った方々が、1日も早く元気に普通の生活ができるようになってほしいという思いを込めて歌いました。「当たり前が幸せと知った」という歌詞が心に残りました。今のこの生活は当たり前ではなく、幸せなことなんだ。この幸せに感謝してこれからいろいろなことをがんばろうと思います。
- ・ 僕たちの住む岩瀬も海が近いので、歌詞から風景が目浮かぶようです。
- ・ 僕たちの故郷岩瀬を、僕は誇りに思っています。大きな海、古くからある趣のある街並みをこれからも大切に残していきたい。そして、ますます街が発展してほしいという願いを込めて歌いました。 等

合唱コンクール当日は、生徒一人一人がこの曲から何かを感じ取り、心が動き、それぞれの思いをもって歌っていることが伝わってくる素敵な合唱になりました。私は、その姿に感動し、生徒の姿から多くを学ぶことができたと感じています。音楽は「人としてどうありたいか」「生きるとはどんなことか」について、生徒と一緒に考えることのできる魅力的な教科であると改めて気付くことができた、忘れられない合唱コンクールになりました。

碓井 絵美 (富・岩瀬中)

音楽の素晴らしさ

「音楽の素晴らしさを多くの生徒たちに伝えたい」という強い思いをもって教員になってから、早くも1年が経とうとしています。初めは右も左も分からない状態で不安ばかりでしたが、多くの方々の力を借りて、今では自分なりに模索しながら生徒と関わることができるようになりました。

その中で、私自身、音楽の素晴らしさを特に意識して指導することができたのは、合唱コンクールでした。初めの頃は、どのクラスも「最優秀賞をとる」と結果ばかりにこだわっていました。しかし、授業やクラス練習を重ねていく中で「この歌詞の部分は優しく歌いたい」「ソプラノの高い音を大きく美しい声で歌いたい」などと曲の表現について思いをもち、自分たちで工夫をして音楽を創っていくクラスが増えていきました。そして、「たくさん練習を重ねたソプラノとアルトのハーモニーがとても綺麗で気持ちよかった」「クレッシェンドをする位置をクラス全員で統一したら、ものすごい迫力で興奮した」と音楽を表現する楽しさに気付く生徒が出てきました。合唱コンクールを通して、練習すればするほど「もっとこうしたい」と次々に思いが膨らむ音楽の奥深さや、自分たちが求めていた表現に近づいたときの喜びや感動を味わうことができる音楽の素晴らしさを感じる生徒が、一人でも多く出てきたのではないかと思います。また、クラス一丸となって目標に向かって頑張る生徒の姿は、私の心の支えとなりました。しかし、こうした生徒の素直さや感性の豊かさに支えられて指導をする中で、自分の力のなさを痛感することも多くありました。指導をすればするほど、自分の語彙力の貧困さ、目指したい表現を巧みに伝えたり、生徒が歌いたいと思う授業の雰囲気をつくったりする技術の不足、曲への教材研究の甘さや浅さを感じました。

教員1年目の初心を忘れずに、先輩方の授業を参観したり様々な講習に参加したり、プロの演奏を聴きに行ったりして多くのことを積極的にインプットしながら、常に指導力の向上を目指して学び続けたいと思います。

渡邊 鈴香 (高・伏木中)